

平成14年度 第5回常任委員会 議事録

日時:平成14年12月17日(火)14:00~17:20

場所:弘済会館4F会議室

出席者:魚本委員長、鮎田、上田、梅原、大津、岡沢、河野、國府、小島、坂井、堺、佐藤、竹田、武若、近田(山崎代理)、辻、富田、二羽、福手、前川、松岡、丸山、宮川、宮本、山本、六郷、渡辺の各委員
睦好幹事長、宇治、大内、島、中村、井上の各幹事

配布資料:

- 5-0 平成14年度 第5回常任委員会 議事次第
- 5-1 平成14年度 第4回常任委員会 議事録(案)
- 5-2 「ポルトランドセメント中の塩化物イオン量の規格値の改正に関する意見照会について」の回答
- 5-3 土木学会全国大会セッション意見
- 5-4 コンクリート標準示方書および改定資料の印税配分
- 5-5 fibの英文CD作成のアルバイト代について
- 5-6 平成15年度事業計画及び予算要求調書
- 5-7 ACI100周年記念出版記念候補推薦に関する幹事会からの依頼の報告
- 5-8 平成14年度コンクリート委員会会計状況(12月9日現在)
- 5-9 継続教育実施委員会からの検討依頼事項
- 5-10 国際会議の開催に伴う共同主催名義の借用について
- 5-11 1 超高強度繊維補強コンクリート構造物(仮称)の設計・施工指針(案)作成に関わる委託研究願
- 5-11 2 Ductalパンフレット
- 5-12 コンクリートからの微量成分溶出に関する現状と課題
- 5-13 表面保護工法研究小委員会・委員構成(案)

議事

1. 委員長挨拶

魚本委員長から挨拶があり、次期委員長候補の選挙、コンクリートライブラリー「微量成分溶出に関する現状と課題(案)」に関する審議、懇親会への参加などの依頼があった。

2. 平成13年度第7回常任委員会議事録(案)の確認

資料5-1の議事録(案)が承認された。

3. 報告事項

(1) 3種委員会公募

島幹事から、土木学会誌での公募期間を来年3月1日~3月末日とし、例年どおりの方法で行いたいとの説明があった。

(2) 「ポルトランドセメント中の塩化物イオン量の規格値の改正に関する意見照会について」の回答

宇治幹事から、資料5-2を用いて国交省の意見照会に対する回答の説明がなされた。また、河野委員より本改正に関する背景について補足説明がなされた。これらに対し次の意見があった。

・回答文1)に関し、今後を考え0.035%以上についても検討しておいて欲しい(魚本委員長)。

・日本の総量規制の考え方は、欧州と異なっており課題の一つである(辻委員)

(3) 土木学会全国大会セッション意見

睦好幹事長が資料 5 - 3 を用いて説明し、プログラム作成委員会に申し送りしたとの報告がなされた。

(4) コンクリート標準示方書および改定資料の印税配分

前川委員が配分割合の決定方法(示方書改定委員会、常任委員会、部会各幹事による貢献度評価 魚本委員長、岡村示方書改定委員会委員長チェック)を含め、資料 5 - 4 を用いて説明を行った。配分率 0 の内容について、委員交代や出席無しによることが関連委員より補足説明がなされた。

(5) flb の英文 CD 作成のアルバイト代

中村幹事が資料 5 - 5 を用いて作業内容と、これにかかった経費について説明を行なった。なお、残部があり、英文 HP に掲載(外国人に限り無料)しているとの追加説明がなされた。

(6) 平成 15 年度事業計画及び予算要求調書

睦好幹事長が資料 5 - 6 を用いて説明し、提出したとの報告を行った。

(7) ACI100 周年記念出版候補推薦に関する幹事会からの依頼の報告

宇治委員が資料 5 - 7 を用いて、7 件の追加推薦を行ったことの説明を行った。続いて山本委員より現状報告がなされた(建築 9、サイロ・煙突 4、橋梁 9、LNG・ケーソン 3、コンクリート製造技術 5、混和剤 2、その他全 44 件)。また、太径鉄筋については今回推薦のなかったことが加えられた。

(8) 平成 14 年度コンクリート委員会会計状況

睦好幹事長が資料 5 - 8 を用いて現状の説明を行った。これに対し魚本委員長より次の補足説明があった。

・示方書の仕掛品で使用しない分は学会へ返金となり、将来の示方書の価格に反映される。

・エポキシ鉄筋関係による寄付金(¥500 万)が学会に納入され、コンクリート委員会で¥400 万使用可能となっているが、今回収入の中には入っていない。

(9) 土木学会賞の推薦

睦好幹事長より、田中賞 3 部門推薦について依頼がなされた(年内に幹事長または事務局まで)。さらに、魚本委員長より、吉田賞についても応募・推薦の依頼がなされた。

(10) 最高裁判所からの依頼

睦好幹事長より、本件が土木学会理事会で協力が承認され、訴訟事例への鑑定人を出すことになった旨説明がなされ、その節は協力して欲しいとの依頼がなされた。

(11) その他

講習会などの実施について下記の報告がなされた。

・耐震性能照査編講習会(3 種委員会活動報告を併せて):12 月 12 日開催、参加 310 名。1 月 30 日大阪開催予定(丸山委員)

・合成構造委員会シンポジウム:12 月 6 日開催(丸山委員)

・耐久性 DB フォーマットシンポジウム:12 月 5 日開催、参加 100 名(河野委員)

・321 委員会シンポジウム:12 月 6 日開催、参加 95 名(近田(山崎委員代理))

・フライアッシュを細骨材に使用する技術指針案(四国電力より委託):作成作業中(島幹事)

4. 審議事項

(1) 小委員会委員の構成

山本委員が、資料 5 - 13 を用いて表面保護工法研究小委員会委員構成の説明を行なった(下水関係からの参加は依頼中)。このうち、出村委員(建築)は土木学会会員ではないことが述べられた。これに対し、魚本委員長より、問題はないが、入会をお勧めして欲しいとの意見があった。286 委員会として立上げ。委員構成に

関する意見等は 1 月末までに、山本委員まで。

(2) 継続教育実施委員会からの検討依頼事項

竹田委員が資料 5 - 9 を用い、前回常任委員会での質問事項回答を含め対応方針の説明を行なった。

これに対し、以下の意見があった。

- ・土木学会委員会行事で CDP 活動に該当しないものはない。従って、全ての行事について CDP 申請書を提出することになり、疑問である。手続きを面倒にしているだけに思える
 - ・コンクリート委員会の講習会やシンポジウムなどの殆どは上級技術者レベルが対象になるのでは？
 - ・2 級、1 級技術者レベル対応は JCI やセメント技術協会からのものを紹介活用するのによいのではないか。
 - ・土木学会認定資格技術者を対象にするなら分かるが、一般技術者については別問題ではないか。
 - ・教育研究小委員会としての活動にいれることは現在考えていない。
 - ・講習会など活動の際に現在も申請書は提出しており、そこで対象者を指定する程度の簡易な方法を考えるのがよい。
 - ・技術推進機構や継続教育実施委員会の動きに左右されることなく、コンクリート委員会としての考え方をむしろ示すのがよい。
 - ・示方書については、2 級、1 級、上級技術者よりも別のランク付けを考えるのがよい。例えば、理解できる、理解して設計まで出来る、示方書を作成することが出来るレベルなど。
- 以上、素案を再度検討作成して頂き、継続審議することになった。

(3) 国際会議の開催に伴う共同主催名義の借用について

睦好幹事長が資料 5 - 10 を用いて依頼内容の説明を行った。審議の結果、小委員会主催として頂くことになった

(4) 超高強度繊維補強コンクリート構造物(仮称)の設計・施工指針(案)作成に関わる委託研究

魚本委員長が資料 5 - 11 - 1 を用いて委託研究内容の説明を行った。続いて、松岡委員が資料 5 - 11 - 2 を用いて Ductal の説明を行なった。これに対し次の意見交換がなされた。

- ・一般使用と特許についてどのようになっているか？

技術力があれば使用できる。特許料は VSL 社に支払うことになる。ライセンスは VSL ジャパンと太平洋セメントが受けている。

- ・材料についてスペシファイするのは難しい。
- ・Ductal という名称を入れるべきでは？
- ・性能設計体系の中でどのように扱うのか。

難しいが、それに近いものが出来るのではと考えている。

- ・一般に使用できるようにというが、実施許諾料の設定如何で実質独占になるのでは？

実施許諾料については、高額とならないよう考えている。

- ・実質一般使用出来ないようであれば、委託先への報告書だけにする(ライブラリーにまでしない)(魚本委員長)
- ・委託内容は指針作成であり、一般普及させることが前提になっている。従って、実施許諾料の問題が解決するまで発刊はのばすのがよい。

以上の結果、一般普及できることを前提に、指針作成と平行してこれらの問題は解決して頂くことになった。

(5) 技術シリーズフォーマット変更

島幹事より、コンクリートライブラリーと技術シリーズのフォーマットのついて、フォントを 10pt に統一するなどの変更が提案され、承認された。

(6) 土木製図基準委員会

宇治委員より外形寸法表示基準の説明と共に、上記委員会への渡辺委員の参加提案がなされ承認された。

(7) コンクリートからの微量成分溶出に関する現状と課題

坂井委員より、資料 5 - 12 を用いて説明がなされ、意見回答書を 1 月 13 日までに坂井委員へメール送付することになった。なお、以下の質疑があった。

- ・学会規準までもっていく計画はあるか？
- ・基準値については、学会単独では困難である。

(8) その他

- ・土木学会技術者資格に関わる教材目次案作成

コンクリート教育研究小委員会活動の中で検討して頂くことになった。

- ・次年度研究討論会

コンクリート教育研究小委員会から、次年度土木学会全国大会研究討論会への企画案があり、次回以降提案審議して頂くことが報告された。

5. 次期委員長推薦投票

常任委員による投票の結果、次期コンクリート委員会委員長候補者に丸山久一委員が選ばれた。

以上